平成２８年度　学校通信

松北だより「笑顔」

第２３号　　平成２８年　７月　８日（金）

本年度の松ヶ江北小学校みんなの合言葉
【あいさつ・そうじ・時間のけじめ】
【やる気・本気・根気】

7月　廊下の隅々まで磨き、松北をもっと
ピカピカにして、夏休みを迎えよう

「あゆみ」の見方Ⅲ

Ⅲは、２～６年生の「第１学期の各教科における観点別の学習の様子」の見方です。例として、２年生のものを掲載しています。

１年生も第２学期からは、見方Ⅱに掲載した「がっこうでの ようす」ではなく、同じくⅡに掲載した「生活の様子」とこの「各教科における観点別の学習の様子」になります。

第１学期の各教科における観点別の学習の様子【第２学年】

◎「各教科における観点別の学習の様子」は、学期ごとに、各観点についておおむね目標を達成している項目を「よい」、さらに努力してほしい項目を「がんばろう」としています。　また、「よい」の中でも特に優れている項目を「たいへんよい」としています。		たいへんよい	よい	がんばろう
国語	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力			
	書く能力			
	読む能力			
	言語についての知識・理解・技能			
算数	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解			
生活科	生活への関心・意欲・態度			
	活動や体験についての思考・表現			
	身近な環境や自分についての気付き			
音楽	音楽への関心・意欲・態度			
	音楽表現の創意工夫			
	音楽表現の技能			
	鑑賞の能力			
図画工作	造形への関心・意欲・態度			
	発想や構想の能力			
	創造的な技能			
	鑑賞の能力			
体育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度			
	運動や健康・安全についての思考・判断			
	運動の技能			

ここでは、他と比べてではなく一人一人の子が各教科の各観点について、目標を達成しているかどうかを評価しています。「よい」とは、「中くらい」という意味ではなく、その学年として「おおむね目標を達成している」という意味です。決して「３段階評価の真ん中」という評価ではありません。「よい」は文字どおり「よい」なのです。

このような評価の仕方を、≪目標に準拠した評価≫と言います。≪到達度評価≫、≪絶対評価≫などと表現する場合もあります。各教科の観点別の学習状況を≪目標に準拠した評価≫で評価するのは、ここ２０数年来の学校教育の流れです。

≪目標に準拠した評価≫が学習状況評価の中核を成すようになる前は、≪集団に準拠した評価≫が中心でした。≪絶対評価≫に対しての≪相対評価≫という表現の方が馴染みがあるでしょうか。「クラス（集団）の中の、中程度の位置にある」という意味で以前に使われていた「５・４・３・２・１」の「３」や、「よい・ふつう・もう少し」の「ふつう」という評価は、まさに≪集団に準拠した評価≫、≪相対評価≫によるもので、≪目標に準拠した評価≫による現在の「あゆみ」における「よい」とは全く意味が違います。≪集団に準拠した評価≫、≪相対評価≫では、例えば「３」や「ふつう」を全体の〇％程度とするなど、予めその割合を定めておきますが、≪目標に準拠した評価≫ではそのようなことはありません。結果としてクラス全員が「よい」以上という場合もあり、それを目指して指導をします。

さらに、「よい」の中でも特に優れている項目を「たいへんよい」としますが、この評価方法の趣旨から、その割合は結果としてかなり抑えているということを最後に申し添えておきます。安易に「たいへんよい」の総数だけを数えて、お子様の学習状況全体を大雑把に、乱暴に評価することは、できればお控えください。

＜あとがき＞
文字ばかりですみません。「あゆみ」を有効に活用していただきたい、その一心で…